



一般質問
ズバリ！ここが聞きたい

植西 浩一 議員

ふるさと納税の充実を

村中町長 >>>

**本町の魅力を伝え、
町内の産業活性化につながるよう進めたい**

□質問・植西議員
さまざまな施策を実現するには、財政の充実が欠かせません。財政を充実させる方法として、ふるさと納税があります。この方法は、みずからの努力で税収を増やすことができ、なおかつ、自治体をアピールすることや地産品を売り込むきっかけにもなり、税収の少ない地方自治体にとって、まさにメリットしかないと思います。

またそれは、選んでもらうにふさわしい地域のあり方を改めて考えるきっかけへとつながります。

ふるさと納税をどのように活用していくのか、どのように増やしていくのか。また、返礼品をどのように設定していくのか、展望をお聞かせください。

■答弁・村中町長
当該寄付は、貴重な財源となります。また、返礼品を全国の皆さまに楽しんでいただくことは、地場産業の活性化及び地域のPRにつながることから、過度な返礼品競争は行わないというスタンスは保ちながら、インターネットサイトでの寄付の受け付けを開始し、返礼品数を増やす取り組みを行ってきました。

毎年、この金額は増えていますが、まだまだ寄付額を増やすことができると考えていますので、さらに広

りました。

人口が少ない本町においてもこのような問題に直面し、何とかこの状況を打開できるような検討を進めているところですが、

近隣町の事例では、転入者の増加等で待機児童の発生や保育ニーズの低年齢化により、いずれも小規模保育園を開設させ、低年齢児の受け入れをしており、本町も十分に参考とさせていただきました。

しかしながら、小規模保育園の開設にあたっては、保育園として使用可能な施設の検討や、その立地環境などの課題もあり、公設か私設かの検討、開設までの準備や体制づくりにも十分な期間が必要です。

また、社会整体的に保育士が不足する中、人材の確保も大きな課題といえます。近隣の保育形態を参考にしながら、何らかの対策を講じる必要があります。

■答弁・植西議員
私の執行方針の中でも、人口減少対策の一環である移住定住にも重点を置き、政策を進めるうえでも、保育環境の改善は、最優先課題であると考え、改善に向けて協議と検討を重ねてまいります。

□質問・安藤議員
小規模保育園設置場所の想定案や保育園運営の整備、人材確保など、検討を進めていることがあればお聞

周知を図っていきます。

使い道については、まちづくりに必要な分野で、補助金等の財源確保が難しいものを中心に有効に活用させていたいただきたいと考えています。

返礼品についての展望ですが、今年度は、「モノ」による返礼だけではなく、まちを体験していただくため、スキー場へのご招待や、友好交流都市である滋賀県湖南市の特産品との連携した商品を返礼品として加える予定です。これら以外にも、町内事業者と協力し、本町の魅力を伝え、町内の産業活性化につながるよう進めてまいります。

□質問・植西議員
農家の生産物などを加工して、しつかり返礼品を育てていく、もしくは開発していくような考えがあればお聞かせください。

■答弁・村中町長
農産物については、数も一定程度必要なことから、農協を中心として考えていただけるよう働きかけているところであり、これから「野菜セット」の返礼品ができる予定です。

また、商工振興補助により、民間の方々の特産品を開発できるように町として支援とPRをします。

□質問・植西議員
他自治体が設定していないようなもの、また、郷土文化を伝えるよう

かせくください。

■答弁・村中町長
教職員住宅等を改修して行えるかどうか、町営か私立か、まだ検討中ですが、来年4月1日までは、国の補助財源も確保しながら、一番の課題である保育士確保も大学や関係機関とも協議を行ってまいります。

□質問・安藤議員
「開設までに十分な期間が必要」とありましたが、最短でどれくらい期間が必要とお考えですか。

■答弁・村中町長
町の施設が整っても保育士の確保ができなかった場合、開設はできないですが、可能な限り早く、年度途中でも開設できるように準備を進めたいと思います。施設の改修にも一定程度の時間はかかるため、ご理解をお願いします。

なものを返礼品として設定することは考えていますか。

■答弁・村中町長
町が新たに何かを開発して返礼品に加えることは、考えていません。

□質問・植西議員
ふるさと納税という制度自体の制限が厳しくなってきた時に自治体のクラウドファンディングのやり方をもっと文化的な目的を推進していかなければならないと思います。

物だけではなく、比布町が実施している高齢者対策や子育て対策などに関連付けさせながら返礼品を設定していくということが必要なのではないかなと思います。

■答弁・村中町長
それらふるさと納税だけでPRするのは難しいと思います。

本年度から「比布町応援大使」という制度も活用し、さまざまな政策を絡めてPRし、できるだけ多くの人に寄付をいただけるように努めていきたいと考えています。

□質問・植西議員
使い道について広聴される機会は設けていますか。

■答弁・村中町長
使い道を聞くという限られたことではなく、町として何が必要かということは、町長の手紙などの広聴で行っています。

保育園の待機児童問題をどのように考えていくのか

村中町長 >>>

来年4月までに保育環境を整備したい

□質問・安藤議員
町長のお考えの中に、「移住を希望される方が『住んでみたい』」と想っていただけの町を目指し、人口減少対策を進めていく考えです」とありました。

2016（平成28）年度の新生児は11人、2017（平成29）年度は新生児26人となり、喜ばしい現状ではありますが、共働きやライフスタイルの変化に伴い、2歳児の保育園入所希望が今までになく多くなり、待機児童が4人出ている状況です。

その年により増減はあるものの、このままではこの町で子育てを考えている移住希望者にブレーキがかかるのではないかと心配の声が上がっています。

町長は今後、待機児童対策として、新たに保育園や乳幼児保育所等の新設の考えがあるのか、お聞かせください。

■答弁・村中町長
くるみ保育園における待機児童の今後の対応について、保育園側も受け入れ体制の拡充について十分協議してまいりましたが、一番には園舎の保育スペースの問題、保育士の配置と入所児童の安全面の問題、さらには、きめ細やかな保育の提供等を考慮すると、入所希望の児童全員の受け入れは難しいという判断に至

りました。

人口が少ない本町においてもこのような問題に直面し、何とかこの状況を打開できるような検討を進めているところですが、

近隣町の事例では、転入者の増加等で待機児童の発生や保育ニーズの低年齢化により、いずれも小規模保育園を開設させ、低年齢児の受け入れをしており、本町も十分に参考とさせていただきました。

しかしながら、小規模保育園の開設にあたっては、保育園として使用可能な施設の検討や、その立地環境などの課題もあり、公設か私設かの検討、開設までの準備や体制づくりにも十分な期間が必要です。

また、社会整体的に保育士が不足する中、人材の確保も大きな課題といえます。近隣の保育形態を参考にしながら、何らかの対策を講じる必要があります。

■答弁・植西議員
私の執行方針の中でも、人口減少対策の一環である移住定住にも重点を置き、政策を進めるうえでも、保育環境の改善は、最優先課題であると考え、改善に向けて協議と検討を重ねてまいります。

□質問・安藤議員
小規模保育園設置場所の想定案や保育園運営の整備、人材確保など、検討を進めていることがあればお聞



かせくください。

■答弁・村中町長
教職員住宅等を改修して行えるかどうか、町営か私立か、まだ検討中ですが、来年4月1日までは、国の補助財源も確保しながら、一番の課題である保育士確保も大学や関係機関とも協議を行ってまいります。

□質問・安藤議員
「開設までに十分な期間が必要」とありましたが、最短でどれくらい期間が必要とお考えですか。

■答弁・村中町長
町の施設が整っても保育士の確保ができなかった場合、開設はできないですが、可能な限り早く、年度途中でも開設できるように準備を進めたいと思います。施設の改修にも一定程度の時間はかかるため、ご理解をお願いします。